

伊賀市スポーツ施設再編計画

(素案)

令和 年 月 日

伊賀市企画振興部スポーツ振興課

第1 策定の趣旨（計画の背景）

- (1) 計画の位置づけ
- (2) 対象となる施設
- (3) 計画の目標期間

第2 スポーツ施設をとりまく現状と課題

- (1) 人口減少、少子高齢化の進む伊賀市
- (2) 厳しい財政状況
- (3) 持続可能なスポーツ施設の必要性
- (4) 市民のスポーツニーズと課題
 - ①地域スポーツ及びスポーツ少年団
 - ②各種目スポーツ協会
 - ③競技スポーツや大規模大会
 - ④健康増進のためのスポーツ

第3 スポーツ施設が抱える課題【カテゴリー別】

- ①体育館等屋内スポーツ施設
- ②屋外スポーツ施設（多目的グラウンド、競技場、野球場等）
- ③プール
- ④テニスコート
- ⑤ゲートボール場
- ⑥武道場（剣道場、武道場）、弓道場
- ⑦その他
- ⑧管理棟
- ⑨施設全体

第4 体育施設アンケート分析

第5 市スポーツ施設以外の施設状況

第6 スポーツ施設再編計画 基本計画

- (1) 見直しの視点
- (2) 基本的な考え方

第7 スポーツ施設再編計画 個別計画

第1 策定の趣旨（計画の背景）

6市町村の合併により誕生した伊賀市は、他自治体に比べ人口一人あたりの公共施設保有量が多く、人口減少社会を迎えている社会経済状況の中では、現状の施設をそのまま維持して公共サービスを継続することが困難であり、将来に渡り持続可能な自治体運営を目指して、全ての公共施設を対象に平成27年3月に伊賀市公共施設最適化計画を策定し、取り組みを開始しました。

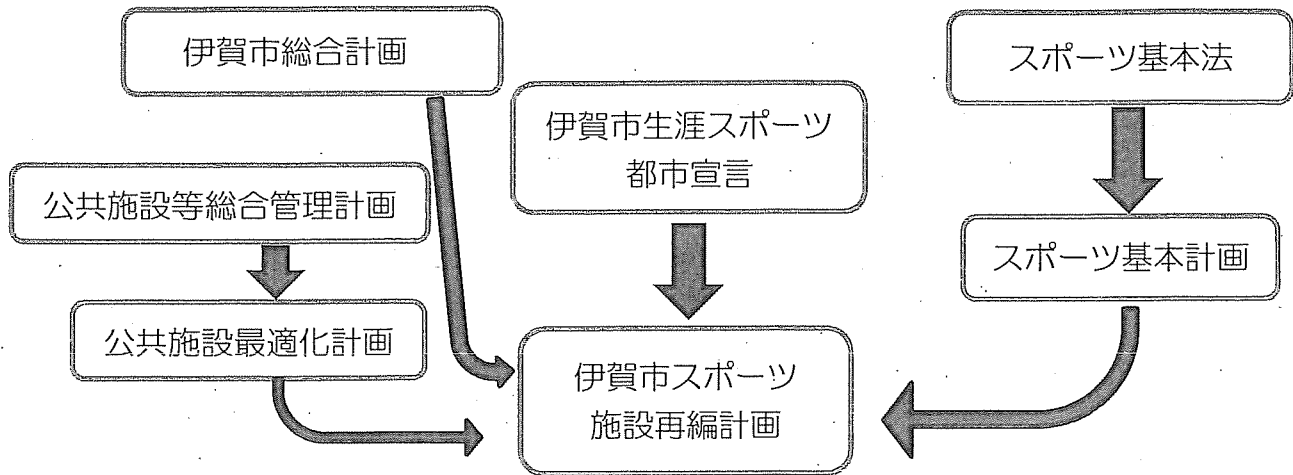
しかし、一方では少子高齢化の進行に伴う子どもたちの運動機会の減少による体力・運動機能の低下や、増加する高齢者世代の健康志向、市民のライフスタイルの変化による多様なスポーツニーズなど、生涯を通じたスポーツへの需要が高まっていることから、伊賀市では平成29年3月に「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行いました。心と体の健康を育むとともに、人と人の交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るため一人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進しています。

前述の公共施設最適化計画の中では、市の各体育施設について、縮小、一部縮小、複合化などの方向を定めていますが、スポーツ振興の視点からも地域のスポーツニーズ、地元地域やスポーツ施設の利用者、スポーツ団体等の意見にも配慮をし、施設のあり方を見直し、スポーツ施設再編計画を策定するものです。

また、2021年に開催されます「三重とこわか国体」では、伊賀市でハンドボール（少年女子）、軟式野球（成年男子）、サッカー（女子）、クレー射撃（成年）、剣道（全種別）などの競技が行われ、その国体の気運の高まりを契機とし、今後のスポーツ振興を図るための整備や体制を整えていくのも理由の一つです。

(1) 計画の位置づけ

本計画は「伊賀市公共施設最適化計画」を踏まえながら持続可能なスポーツ施設運営を図るため、伊賀市生涯スポーツ都市宣言の実現に向け、今後の伊賀市のスポーツ施設の再編と整備の指針となるものです。



(2) 対象となる施設

本計画の対象は、伊賀市体育施設条例第2条に規定するスポーツ施設の再編等について検討するものです。検討にあたっては、学校スポーツ施設、県のスポーツ施設や民間のスポーツ施設の状況も考慮します。

(3) 計画の目標期間

本計画の目標期間は、2020（令和2）年度から2029（令和11）年度までの約10年間とします。

なお、個別計画の策定においては、長寿命化計画について言及することとします。

第2 スポーツ施設をとりまく現状と課題

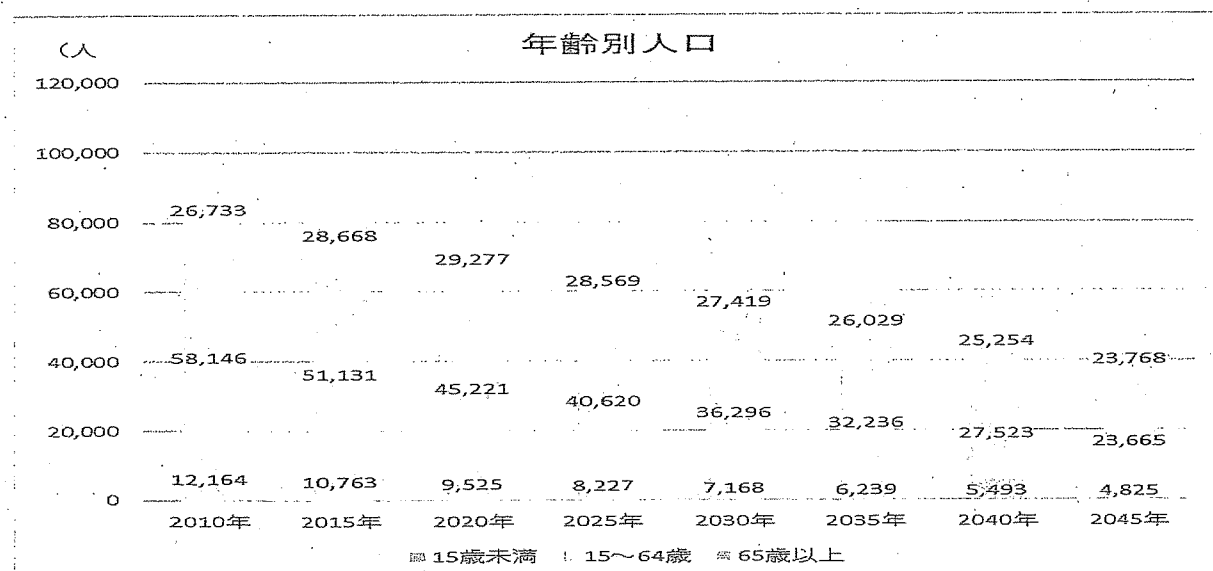
(1) 人口減少、少子高齢化の進む伊賀市

伊賀市は2004（平成16）年11月1日に6つの市町村が合併により誕生し、15年が経過いたしました。合併当時とは社会情勢も大きく変動し、2005（平成17）年4月には103,089人であった人口も2019（令和元）年6月現在91,630人、2030（令和12）年では約71,000人まで減少しさらに長期的に人口減少が続くことが予想されています。このことは今後のスポーツ人口への影響も大きく、青少年のスポーツ人口の減少や高齢者のスポーツ人口の比率増などによりスポーツニーズも変化することが予想され、その変化に対応しながら、スポーツ施設を再編していくことが必要となります。

年齢別人口

単位：人

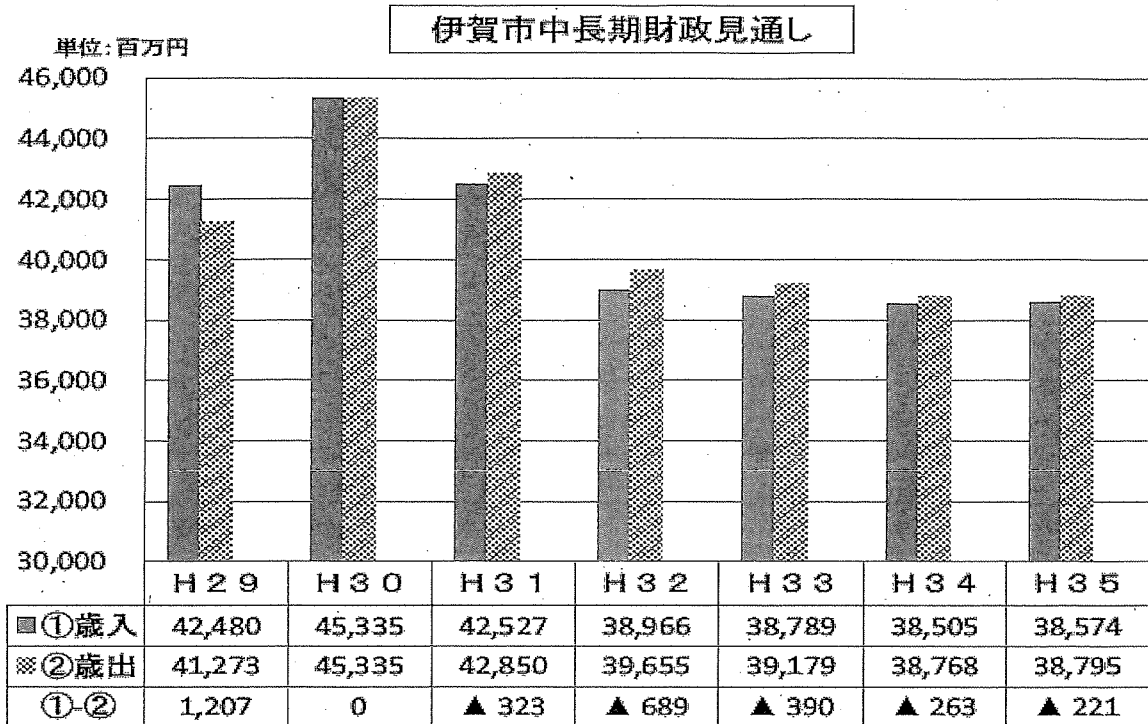
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
15歳未満	12,164	10,763	9,525	8,227	7,168	6,239	5,493	4,825
15～64歳	58,146	51,131	45,221	40,620	36,296	32,236	27,523	23,665
65歳以上	26,733	28,668	29,277	28,569	27,419	26,029	25,254	23,768
合計	97,043	90,562	84,023	77,416	70,883	64,504	58,270	52,258
うち75歳以上	14,452	15,159	15,782	17,284	17,620	16,941	15,967	14,859
15歳未満人口比率	12.5%	11.9%	11.3%	10.6%	10.1%	9.7%	9.4%	9.2%
15～64歳人口比率	59.9%	56.5%	53.8%	52.5%	51.2%	50.0%	47.2%	45.3%
65歳以上人口比率	27.5%	31.7%	34.8%	36.9%	38.7%	40.4%	43.3%	45.5%
75歳以上人口比率	14.9%	16.7%	18.8%	22.3%	24.9%	26.3%	27.4%	28.4%



(2) 厳しい財政状況

伊賀市においても少子高齢化や税収入の減少等により、厳しい財政状況となっており、中期財政見通しでは令和6年度と令和元年度を比較すると歳入では主に市税や合併算定替の段階的縮減による地方交付税の減少、合併特例債の終了などにより財源がますます減少していくことが予想されています。健全な財政運営を図るため、自主財源を確保し、税収を高める必要があります。平成31年度から歳入が減少する中、財政規模に見合った、スポーツ施設数に

再編する必要があります。



※平成29年度は決算額、平成30年度は当初予算を基本とし、算出しています。
 ※繰越事業については数値に含まれていません。

(3) 持続可能なスポーツ施設の必要性

国では平成29年3月にスポーツ基本計画が策定され、その中でスポーツは「みんなのもの」であり、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで全ての人々が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創ることを目的としており、地域に応じたスポーツの施策を実施し、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに関係部局・団体が一体となって取り組むとあり、本市においても、平成29年3月に「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行い、心と体の健康を育むとともに、人と人の交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るため一人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進しています。そうした中、スポーツ振興の視点から施設の持続可能な運営が求められています。

(4) 市民のスポーツニーズと課題

①地域スポーツ及びスポーツ少年団

地域スポーツ振興のニーズに対応した施設としては、最も身近な学校の体育館及びグラウンドをあげることができますが、少子化による学校施設の統合により、学校の体育施設も閉鎖となり、市スポーツ施設が受け皿となっています。

②各種目スポーツ協会

各種目スポーツ協会のニーズに対応した施設としては、その種目の設備があることが大前提であることから、学校開放施設では、そのニーズに対応できない、陸上競技、テニスや弓道などは、体育施設条例に位置付けられたスポーツ施設を利用することになり、特定のスポーツのみの施設については、そのニーズを把握し、改修計画をたてる必要があります。

③競技スポーツや大規模大会

競技スポーツや大規模大会のニーズに対応した施設としては、その競技に適した体育施設条例で位置付けられた施設であり、スポーツ庁が2017年に策定した第2期スポーツ基本計画に掲げている「する」、「みる」、「ささえる」を実践できる施設となり、現在伊賀市内にあるスポーツ施設では、上野運動公園野球場、上野運動公園競技場及び県営施設のゆめドームうえのが該当し、維持費及び改修に多額の経費をようすることが課題となっています。

④健康増進のためのスポーツ

スポーツ基本法（前文）では、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されております。スポーツを楽しみながら適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じて健康寿命の延伸への貢献が期待されます。そういったスポーツを実践する場所としては、身近なスポーツ施設が適当と考えており、現役世代では、日々忙しく、なかなかスポーツをするための時間が確保できない、また、自分の健康課題に対する危機感をそれほど感じていない現状があります。健康のためにスポーツを推進している国の「スポーツ基本計画」では成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度とする目標を掲げています。本市でも誰もが各々の年代や関心・適正等に応じて日常的に身近で気軽に、生涯にわたって目的に応じたスポーツ活動に親しむことのできる機会の創出と環境づくりを検討する必要があります。関係部署やスポーツ団体、総合型地域スポーツクラブなど、官民連携による取組みが必要です。

第3 スポーツ施設が抱える課題【カテゴリー別】

2020年3月現在、市が所有する施設は30施設が存在します。
過去5年間の利用状況の推移は下記のとおりです。

① 体育館等屋内スポーツ施設

(人)

体育館	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1 上野運動公園体育館／伊賀市民体育館	21,801	27,888	24,813	23,252	23,270	25,831
2 阿山B&G海洋センター体育館	22,022	21,159	21,325	21,280	21,477	18,926
3 大山田B&G海洋センター体育館	14,573	15,912	12,505	12,848	14,084	17,084
4 青山北部公園運動施設	8,077	6,845	6,702	4,749	4,730	4,853
5 大山田東体育館	1761	1499	1,472	1,482	1,191	1,769
6 青山児童屋内運動場	589	976	1,080	1,688	988	566
7 青山高尾体育館	864	860	722	281	266	688
小計	69,687	75,139	68,619	65,580	66,006	69,717
ゆめドームうえの	67,518	81,924	78,232	81,833	110,419	121,129

体育館	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 伊賀市民体育館（上野運動公園体育館含む）	2000	鉄骨造 スレート瓦葺瓦棒葺 2階	有	357	97.8	A	25,831	72.4	64.31	A
2 阿山B&G海洋センター体育館	1989	鉄筋コンクリートスレート葺 2階建て	有	304	83.3	B	18,926	62.3	59.35	A
3 大山田B&G海洋センター体育館	1988	鉄筋コンクリート2階建て	有	356	97.5	A	17,084	48.0	52.34	B
4 青山北部公園運動施設	1962	鉄筋コンクリート	無	305	83.6	B	4,853	15.9	36.59	C
5 大山田東体育館	1994	鉄骨造	有	130	35.6	C	1,769	13.6	35.46	C
6 青山児童屋内運動場	1982	鉄筋コンクリート	無	12	3.3	C	566	47.2	51.94	B
7 青山高尾体育館	1988	鉄骨造	有	14	3.8	C	688	49.1	52.91	B

【学校体育館利用者数】（体育館及びグラウンド）

	施設数	26年	27年	28年	29年	30年
小学校	21	187,518	194,923	198,548	154,119	133,587
中学校	10	45,921	55,209	60,343	56,721	62,467
合計	31	233,439	250,132	258,891	210,840	196,054

市内には上記7施設の外、県営のゆめドームうえのや31の学校体育館があり、多種多様なスポーツに利用され、体育施設条例に位置付けられた、スポーツ施設の利用者数は市内中心部に近い施設と中心部から離れた施設では大きな差があります。利用上位の主要3施設では、市民の利用ニーズは高く、一方で、利用主体が地域住民となっている、コミュニティ施設としての性格が強い下位の施設は利用者数が極端に少ないのが現状です。

しかしながら、下位3施設の地域内には、他の体育館や学校の体育館が比較的身近にあることから、スポーツ振興の観点からも他の施設でスポーツをすることができ、縮小方向で進めることが求められています。

②屋外スポーツ施設（多目的グラウンド、競技場、野球場等）

(人)

競技場／多目的広場等		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1	阿山第1運動公園競技場	45,923	2,144	23,796	50,955	49,996	44,222
2	上野運動公園競技場	22,594	24,239	20,376	22,864	19,661	24,936
3	いがまちスポーツセンター多目的グラウンド	17,058	16,520	19,924	18,047	18,048	17,218
4	ゆめが丘多目的広場	17,058	16,520	14,020	17,173	12,283	9,837
5	青山グラウンド	12,690	12,831	13,872	13,834	12,108	12,027
6	阿山第2運動公園	7,279	8,052	7,697	8,179	7,871	13,945
7	島ヶ原運動広場	6,272	5,646	6,039	5,831	5,261	6,142
8	青山矢持グラウンド	1,839	1,593	1,163	1,131	571	1,271
9	大山田東グラウンド	1,212	820	1,027	730	382	627
10	青山高尾グラウンド	984	963	711	713	524	522
11	上野運動公園野球場	12,986	11,954	11,095	10,657	10,067	10,029
小計		145,895	101,282	119,720	150,114	136,772	140,776

競技場／多目的広場等	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 阿山第1運動公園グラウンド	1983			126	34.5	C	44,222	351.0	73.42	A
2 上野運動公園競技場	1975	鉄筋コンクリート（本館棟1997）	本部棟 有	136	37.3	C	24,936	183.4	57.11	A
3 いがまちスポーツセンターグラウンド	1992			201	55.1	C	9,837	48.9	44.04	C
4 ゆめが丘多目的広場	2000	鉄骨造スレート瓦（クラブハウス）	クラブハウス 有	83	22.7	C	9,837	118.5	50.81	B
5 青山グラウンド	1997	鉄骨鉄筋コンクリート（野球場）	事務所 有	148	40.5	C	12,027	81.3	47.18	B
6 阿山第2運動公園	1983			56	15.3	C	13,945	249.0	63.5	A
7 島ヶ原運動広場	2007			138	37.8	C	6,142	44.5	43.61	C
8 青山矢持グラウンド				39	10.7	C	1,271	32.6	42.45	C
9 大山田東グラウンド				60	16.4	C	627	10.5	40.3	C
10 青山高尾グラウンド				18	4.9	C	522	29.0	42.1	C
11 上野運動公園野球場	1963	鉄筋コンクリート造本館棟（本館棟1997）	本部棟 有	157	43.0	C	10,029	63.9	45.49	B

屋外スポーツ施設については、上記以外に身近な施設として学校のグラウンドがあり、体育施設条例に位置付けられた、スポーツ施設の利用者数は市内中心部に近い施設と中心部から離れた施設では大きな差があります。利用上位の主要6施設では、市民の利用ニーズは高く、一方で、利用主体が地域住民となっている、コミュニティ施設としての性格が強い下位の施設は利用者数が極端に少ないのが現状です。

しかしながら、下位3施設の地域内には、他の多目的グラウンドや学校のグラウンドが比較的近くにあることから、スポーツ振興の観点からも他の施設でスポーツをすることができ、縮小方向で進めることが求められています。

また、市には人工芝グラウンドがなく、雨天時のスポーツ大会の開催等に支障をきたすこともあり、人工芝グラウンドの整備を望む声も多くきかれる状況です。

③プール

(人)

プール		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1	大山田B & G海洋センタープール	6,847	4,393	4,527	4,411	4,474	4,437
2	上野運動公園プール	5,094	4,371	5,008	4,727	2,553	0
3	阿山B & G海洋センタープール	3,560	2,647	2,843	3,016	2,365	2,614
小計		15,501	11,411	12,378	12,154	9,392	7,051

プール	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 大山田B&G海洋センタープール	1988	鉄骨造	有	48	13.2	C	4,437	92.4	60.07	A
2 上野運動公園プール	1950			0	0	C	0	0.0	36.37	C
3 阿山B&G海洋センタープール	1989	鉄骨造	有	39	10.7	C	2,614	67.0	53.56	B

プールは市営プールが2施設、ヒルホテルサンピアレジャープールも1施設あり、夏期間中の市民ニーズ十分対応できていると考えています。

④テニスコート

(人)

テニスコート	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1 上野緑ヶ丘テニスコート	7,391	7,394	13,587	10,950	11,358	9,257
2 上野運動公園テニスコート	9,052	8,253	10,167	8,850	8,111	7,750
3 ゆめが丘テニスコート	6,540	7,118	8,355	7,493	5,952	4,974
4 阿山第1運動公園テニスコート	2,144	1,266	2,346	1,526	1,606	1,485
5 いがまちスポーツセンターテニスコート	1410	1490	1,337	1,178	878	742
6 青山テニスコート	367	175	236	275	225	210
小計	26,904	25,696	36,028	30,272	28,130	24,418

テニスコート	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 上野緑ヶ丘テニスコート	1956			213	58.4	C	9,257	43.5	69.5	A
2 上野運動公園テニスコート	1980			327	89.6	B	7,750	23.7	55.15	A
3 ゆめが丘テニスコート	1997			323	88.5	B	4,974	15.4	49.12	B
4 阿山第1運動公園テニスコート	1983			203	55.6	C	1,485	7.3	43.25	C
5 いがまちスポーツセンターテニスコート	1992			117	32.1	C	742	6.3	42.54	C
6 青山テニスコート				61	16.7	C	210	3.4	40.44	C

テニスコートは上記6施設の市営コートその他、ヒルホテルサンピアに夜間も利用できる7面のテニスコートがあります。市営テニスコートは、各地域に点在し、利用状況は施設により大きな差が生じています。関係団体からは、大会を実施するには、8面程度のコート数が必要と聞いていることから、老朽化している施設、極端に利用人数が少ない施設については、縮小し、大会が開催できる様に施設集約について検討していく必要があります。

⑤ゲートボール場

(人)

ゲートボール場	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1 阿山第1運動公園屋内ゲートボール場	42,777	103,993	55,602	57,913	60,112	55,113
2 しらさぎ運動公園多目的グラウンド	—	—	22,691	16,607	19,076	21,040
3 いがまちスポーツセンターゲートボール場	970	1006	705	339	160	0
4 しらさぎ運動公園屋外ゲートボール場	—	—	—	0	0	25
小計	43,747	104,999	78,998	74,859	79,348	76,178

ゲートボール場	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 阿山第1運動公園屋内ゲートボール場	1996	鉄骨造折板厚鉄	有	320	87.7	B	55,113	172.2	65.94	A
2 しらさぎ運動公園多目的グラウンド	2015			302	82.7	B	21,040	69.7	46.06	B
3 いがまちスポーツセンターゲートボール場	1992			0	0.0	C	0	0.0	40.91	C
4 しらさぎ運動公園屋外ゲートボール場	2015			3	0.8	C	25	8.3	42.12	C

ゲートボール場はしらさぎ運動公園多目的グラウンドが運用開始してから、大規模な大会を天候に左右されずに開催できることから市民ニーズに十分対応していると考えています。

しかしながら、極端に利用者が少ない施設については、検討していく必要があります。

⑥武道場（剣道場、柔道場）、弓道場

(人)

武道場／弓道場		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1	伊賀上野武道館剣道場	4,260	4,459	5,079	5,027	5,237	4,493
2	伊賀上野武道館柔道場	2,892	2,918	3,025	2,683	3,144	2,565
3	伊賀上野武道館弓道場／伊賀市民弓道場	2,269	2,049	3,677	2,091	4,115	2,899
小計		9,421	9,426	11,781	9,801	12,496	9,957

武道場等／弓道場	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 伊賀上野武道館剣道場	1983	鉄骨造	有	294	80.5	B	4,493	15.3	51.47	B
2 伊賀上野武道館柔道場	1983	鉄骨造	有	126	34.5	C	2,565	20.4	61.45	B
3 伊賀市民弓道場（伊賀上野武道館弓道場含む）	2018	鉄骨造スレート葺	有	364	99.7	A	2,899	8.0	37.08	C

伊賀上野武道館に武道場についてすでに耐用年数（2017年）を過ぎており公共施設最適化計画では「Ⅱ期 縮小 他施設移転」の施設であることから利用ニーズを把握したうえで、どこに移転させるか検討の必要があります。

⑦その他

その他（屋内多目的広場）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1	阿山B&G海洋センタートレーニングルーム	17,956	7,126	8,098	8,742	10,919	10,853
3	大山田B&G海洋センタートレーニングルーム	5,077	6,543	3,891	4,681	4,318	4,430
小計		23,033	13,669	11,989	13,423	15,237	15,283

その他（トレーニングルーム等）	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 阿山B&G海洋センタートレーニングルーム	1989	鉄筋コンクリートスレート葺	有	334	91.5	A	10,853	32.5	74.31	A
2 大山田B&G海洋センタートレーニングルーム	1988	鉄筋コンクリート隠屋根	有	316	86.6	B	4,430	14.0	52.33	B

両施設とも、ダンスや武道と幅広く利用され利用者数も多く地域住民のニーズに適合した施設といえます。

⑧管理棟

(人)

管理棟等		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1	しらすぎ運動公園管理棟	—	—	—	1,348	2,143	1,713
2	上野運動公園スポーツセンター	2,042	693	892	899	73	748
3	伊賀市民体育館管理棟	—	—	—	—	993	2,929
小計		2,042	693	892	2,247	3,209	5,390

管理棟等	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1 しらすぎ運動公園管理棟	2015	鉄筋コンクリート隠屋根	有	121	33.2	C	1,713	14.2	36.55	C
2 上野運動公園スポーツセンター	1994	鉄筋コンクリート隠屋根	有	31	8.5	C	748	24.1	52.95	B
3 伊賀市民体育館管理棟	1991	鉄骨造（屋根）不燃シングル	有	102	27.9	C	2,929	28.7	60.50	A

管理棟は各スポーツ施設の管理事務所として機能していますが、上野運動公園スポーツセンターの老朽化がいちじるしく、規模を縮小し建て替える必要があります。

⑨施設全体

施設全体の課題として、少子高齢化を迎え、ライフスタイルの多様化やスポーツに対する市民ニーズの多様化から、それらに対応できる環境整備が求められています。

ア 施設の老朽化

スポーツ施設は整備後 20 年以上経過している施設がほとんどで、今後個別計画の中で改修計画を策定し工事を進めていく必要があります。

イ 大規模な大会に対応できる施設への整備

本市が所有する施設で国が策定したスポーツ基本計画のスポーツを「する」、「みる」を両方実践できる施設は上野運動公園競技場と上野運動公園野球場です。競技場は芝生が張られ養生期間が必要となることや選手の控室などの環境、見るための環境などにも多くの課題があり、なでしこリーグ所属の女子サッカーチームが所在しているにもかかわらず環境整備が向上していかない状況にあります。また、陸上競技場としての400mトラックの全天候化も課題となっています。

ウ 利用の少ない施設や安定的な利用ができない施設

年間を通じて利用者が極端に少ない施設があり、地域住民の利用に限定された施設となっており縮小方向で進める必要があります。

また、グラウンドの中には雨など天候に左右されグラウンドの環境の悪化を避けるため使用させない場合があるなど安定した利用ができない施設があります。

エ 災害時の避難所

体育施設の中には災害時の避難所となっている施設があり、地域住民の方からはスポーツ施設としてよりも避難所機能維持のために施設の存続を希望する声が聞かれます。

【拠点避難所】 大山田東体育館、青山児童屋内運動場、青山高尾体育館

【指定避難所】 伊賀上野武道館、阿山B&G海洋センター、大山田B&G海洋センター、

【ハリポート】 上野運動公園野球場、上野運動公園競技場、ゆめが丘多目的広場、
いがまちスポーツセンター総合グラウンド、大山田東グラウンド、
阿山第一運動公園、大山田B&G海洋センター駐車場、
青山高尾グラウンド、青山矢持グラウンド、青山グラウンド

オ 計画的な整備

財政状況を見極め、大規模な改修を含め必要性を十分検討し計画的な整備を行うため、スポーツ施設長寿命化計画策定の必要があります。

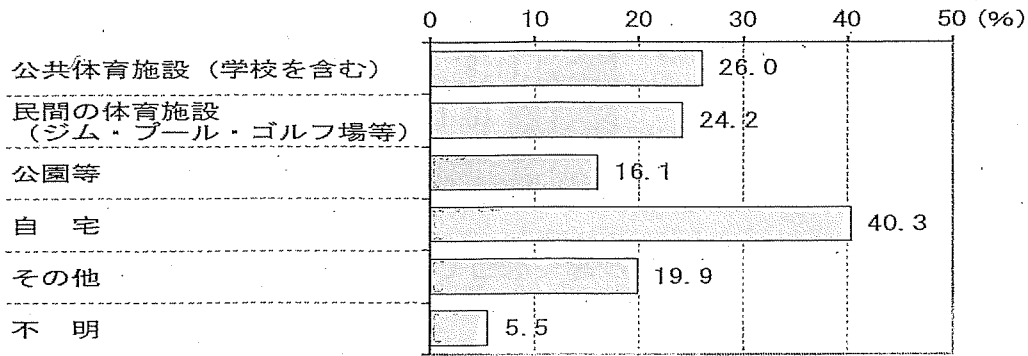
※

利用状況の評価			
(各評価項目ごとの指標と評価類型の考え方)			
評価項目	A	B	C
稼働率(条例及び規則による年間運営日数に対する実際の稼働日数の割合)	稼働率が9割を超える施設	稼働率が6割から9割の施設	稼働率が6割未満の施設

第4 体育施設アンケート分析

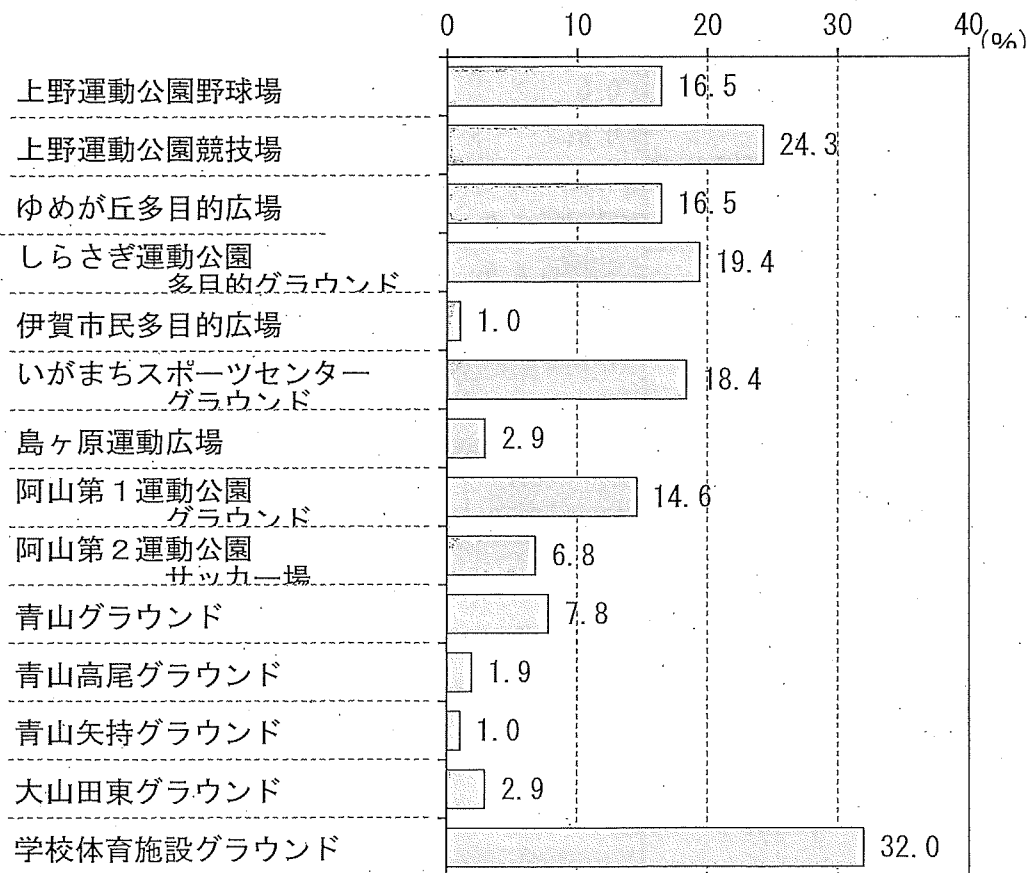
アンケートについては、無作為抽出した市民2,222人に対し平成30年8月30日に配布を開始し、同年9月30日までに回収し、2,222票のうち、782票を回収しており、回収率は35.2%となっています。

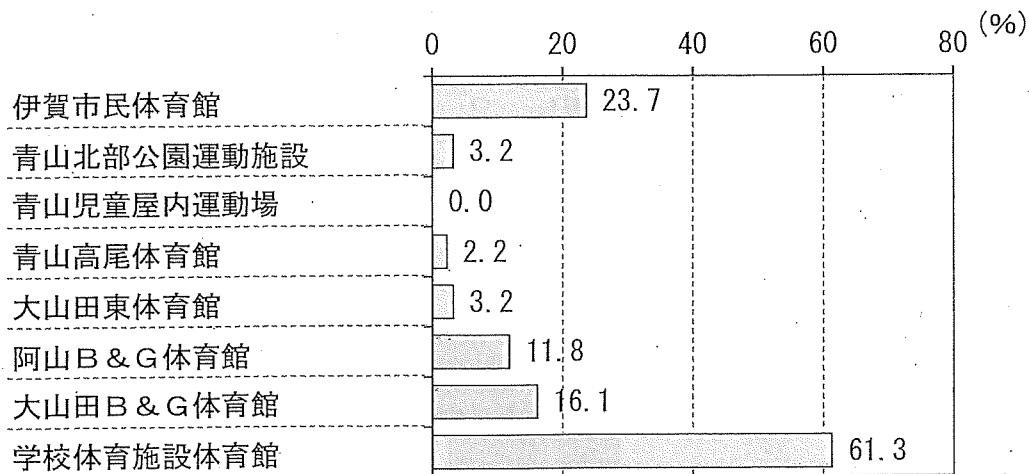
①あなたが、スポーツ・運動をする場合どのような場所で行いますか？



自宅での割合が40.3%、と最も高く、学校を含む公共体育施設が26.0%となっており、スポーツを実施する場所においては、学校を含む公共体育施設の重要度が高いことが分かります。

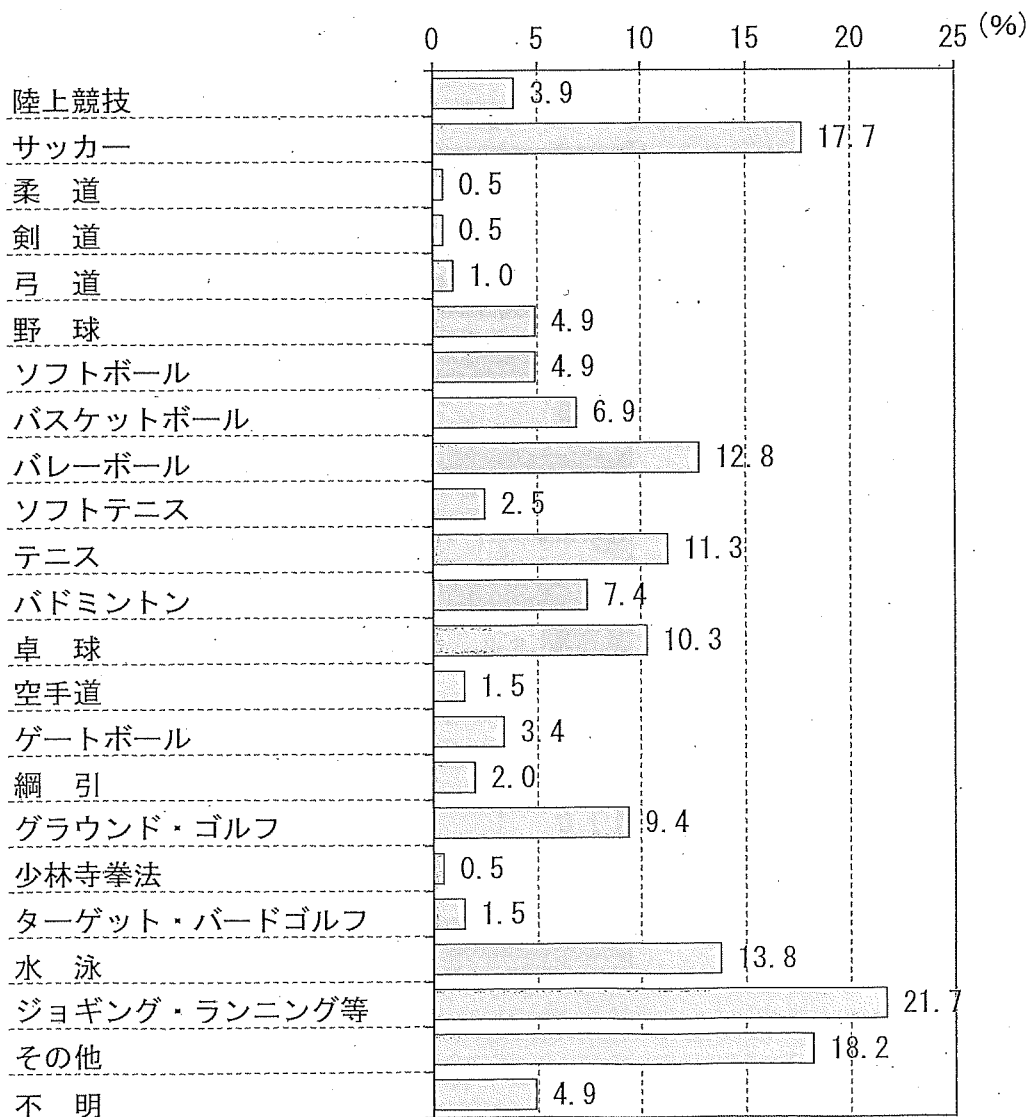
上記①中で利用頻度の高い施設は、どこですか？





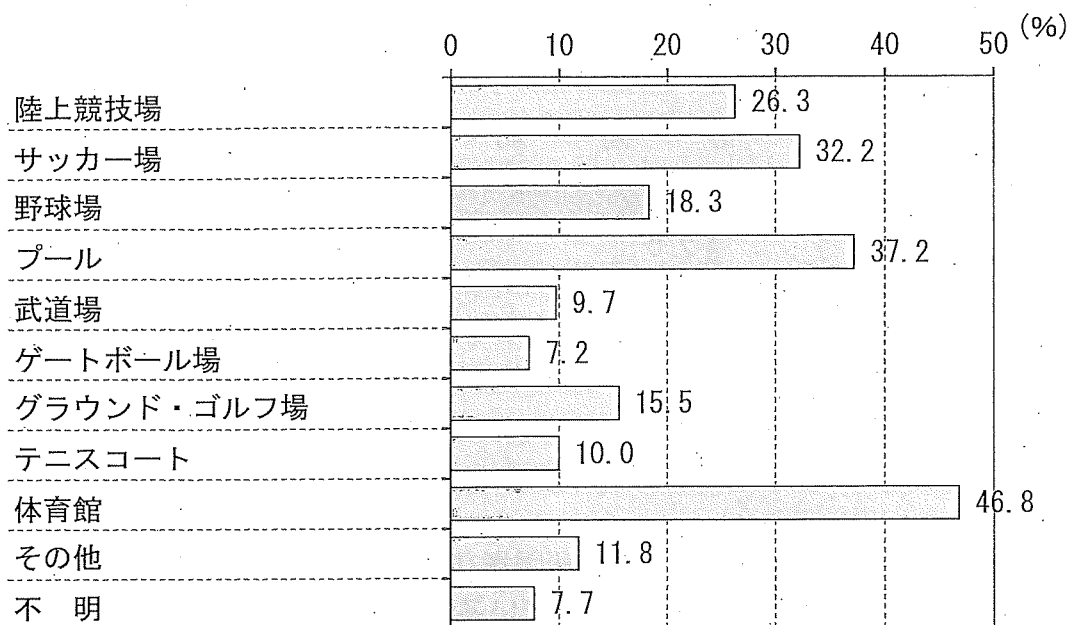
学校グラウンド及び体育館とも割合が高くなっていることから、身近な場所でスポーツをする方が多いことがわかります。

②あなたが公共の体育施設及び学校体育施設で運動・スポーツをする場合、どのような種目を行いますか？



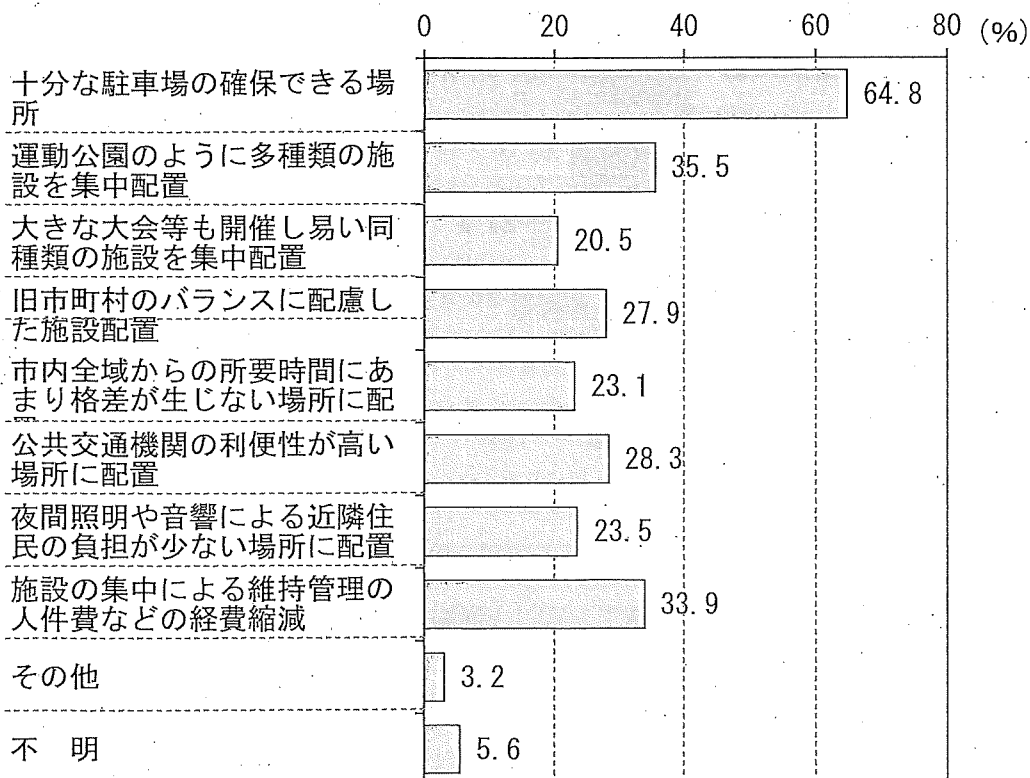
ジョギング・ランニング・ウォーキングが21.7%、サッカーが17.7%、水泳が13.8%、バレーボール12.8%、テニスが11.3%、卓球が10.3%となっています。

③伊賀市の将来のために充実させるべき体育施設は何であると思われますか？



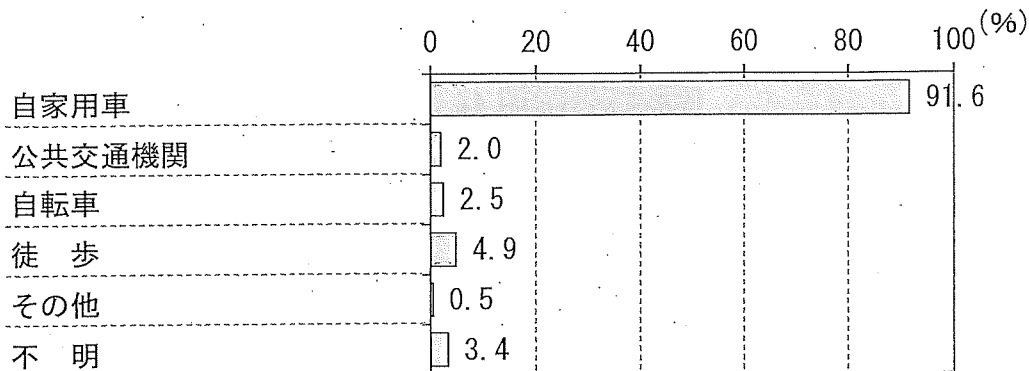
②③から上野運動公園競技場内のジョギングコース、各サッカー場、市民体育館、市民プールは特に重要な施設であることが分ります。

④スポーツ施設の適正配置を検討する場合に重視すべき視点はどこだと思えますか？



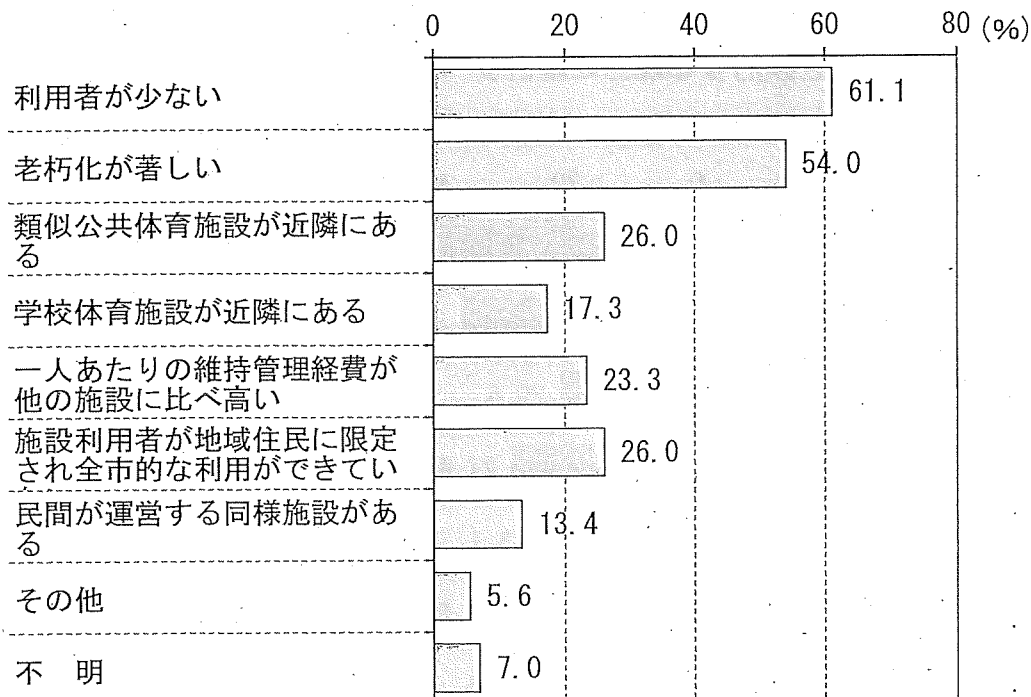
十分な駐車場が確保できる場所であることが64.8%、運動公園のように多種類の施設を集中して配置することが35.5%、施設の集中によって、施設の維持管理にかかる人件費などの経費縮減を図ること33.9%となっています。

⑤あなたが公共体育施設及び学校体育施設を利用する場合の交通手段はなんですか？



自家用車の割合が91.6%とほとんどの利用者が車での利用であることから、広い駐車場がある、多種類の施設がある運動公園を望んでいることが分ります。

⑥サービスを維持していくためには、どのような施設を見直すべきだと思いますか？



⑥から利用者が少ない、老朽化が著しい、類似公共施設が近隣にある並びに施設利用者が地域住民に限定され全市的な利用ができていない施設については、見直した方がいいと思っている方が多いことが分りました。

⑦公共体育施設（学校体育施設を除く）のより望ましい施設利用について、体育施設面以外

で市民に使い易くするためのサービスは？

- 使用時間の単位を1時間単位から30分単位にするが いいえ 60.7%
- 使用時間の延長 はい 65.5%
- 予約時のインターネット利用 はい 78.6%
- 施設の情報提供をもっと増やす はい 85.8%となっています。

ここでは、ネット予約等の導入を望む声が多いことがわかります。この様な声をスポーツ施設再編計画基本計画に盛り込んでいきたいと考えています。

第5 市スポーツ施設以外の施設状況

(1) 体育館

県営ゆめドームうえの

第1競技場 (1,750 m²、2階固定観客席 1,100 席、1階引出観客席 500 席)

バスケットボールコート2面、バドミントンコート8面、

バレーボールコート(6人制)4面、バレーボールコート(9人制)3面

卓球 20面 ハンドボールコート 1面

第2競技場 (714 m²、2階固定観客席)

バスケットボールコート1面 卓球6面 バレーボールコート(6・9人制)1面

バドミントンコート1面

伊賀市内で唯一の県営施設であり、屋内施設で唯一スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」を実践できる施設であり、大規模大会等の開催等競技スポーツの振興にとってそのニーズは高い。

(2) サッカー場(フットサル場)

どんぐりパークフットサルコート

フットサルコート1面

どんぐりパーク少年サッカーコート(2020年4月完成予定)

少年用サッカーコート1面

伊賀市内で唯一の人工芝フットサルコート、少年サッカーコートであり今後少子化によって少年サッカー人口の減少していく中、市での整備方向性を考えることが課題となります。

(3) プール

ヒルホテルサンピアレジャープール

市内には市営プールが2箇所あり、民間のプールとあわせて市民ニーズに十分対応できると考えている。

(4) テニスコート

ヒルホテルサンピアテニスコート

屋外 5面(オムニコート) ナイター照明 通年

ヒルホテルサンピアテニスコート

屋内 2面(ハードコート) ナイター照明(冬期はスケートリンク)

やぶちゃランドテニスコート

屋外 2面(ハードコート) ナイター照明無

ホテルローザブランカテニスコート

屋外 1面(オムニコート) ナイター照明無

さるびの温泉テニスコート

屋外 1面(オムニコート) ナイター照明有

テニスコートは民間施設を含め各地域に点在しており、日常の市民ニーズには十分対応できると考えていますが、テニス協会・ソフトテニス協会からは大規模大会等ができる様施設の改修要望があり、施設の集約化が課題となっています。

第6 スポーツ施設再編計画 基本計画

—市民ニーズに対応した持続可能なスポーツ施設のあり方—

(1) 見直しの視点

スポーツ施設の種別ごと、施設ごとにそれぞれの課題があります。それらを解決するためには現状を検証したうえで再編に向けた考え方を整理しなくてはなりません。施設の利用状況と建物の現状を把握し、今後の人口推計も踏まえながら今後のあるべき施設配置を考えました。

①スポーツ施設としての役割

ア 受益の範囲

- ・利用頻度と利用者数
- ・利用者の固定化

イ 施設の状況

- ・耐震はどうか
- ・設備は充実しているか（やりたい種目の）
- ・今後大規模修繕は必要か
- ・その他安全上の問題は

ウ スポーツに親しみ楽しむ施設

- ・身近に施設はあるか
- ・その施設で多種多様な教室を実施できるか

②市の規模に見合った配置

ア 施設数

- ・地域ごとの配置数

イ 利用状況とニーズ

- ・スポーツ人口の将来予想

(2) 基本的な考え方

市の財政状況が厳しい中、社会体育施設整備事業といえども従来どおりの予算を投入することは不可能です。ましてや、スポーツ施設全体をみても、使用率の低い施設や老朽化が著しい施設及び多額の維持管理費を要する施設が多い状況にあるなかで、施設の集約化は避けて通れないものであり、公共施設最適化計画で残す施設と廃止する施設について一定の方針はありますが、スポーツ振興の観点から再度方向性を見極めなければなりません。

①極端に利用者が少ない施設は縮小方向で進める

②地域住民に利用者が固定化された施設は縮小方向で進める

③市民の利用ニーズがあり、老朽化の著しい施設は他の施設の近くに集合移転させる

④施設機能の集約化を図る

○屋内体育館及び多目的広場については、学校開放施設を含め旧町村域内に最低1箇所は存続させる方向で再編します。

○テニスコートについては、大規模大会が可能となるよう公共施設最適化計画の継続施設に集約し再編します。

⑤民間施設等との重複を考慮し再編する

○民間が所有しているスポーツ施設を把握し重複を避けることも効率的な施設運営には必要と考えています。(例 サンピアテニスコート等)

⑥体育施設アンケート分析を考慮し再編する

⑦競技スポーツの振興について市内2つのエリアを改修し進める

○上野運動公園エリア

○阿山運動公園エリア

第7 スポーツ施設再編計画 個別計画